

リエゾン「繋ぐ」シニアが、静岡での人材マッチング支援で大活躍

「新現役交流会」を通じて、静岡市の中小企業を支援する百瀬さん

5月号では、静岡市の中心市街地の活性化支援を契機に、静岡市や地元企業の様々な新規取り組みで、多くの市役所職員、関係者に頼りにされている百瀬伸夫さんをご紹介します。今月号では、今年70歳になる百瀬さんが、新型コロナ禍の中で、都市部の大企業OB・OG人材と、地元中小企業の経営者とを、繋ぐ役割で貢献されている「新現役交流会」の支援活動を紹介します。

新現役交流会とは、金融機関などの支援機関が、豊富な知識・経験・人脈を持つシニア人材「新現役」と、専門的サポートを必要とする中小企業のマッチングを図る仕組みです。まさに「人材活用と中小企業支援」を両立させる取り組みで、関東経済産業局が新現役の登録データベースを管理・運用しています。

全国に先駆けた「自治体主導の新現役交流会」が静岡で生まれた経緯

超高齢化社会での人材不足や、地域経済の活性化の両面を、自治体の立場で推進してきたのが、静岡市役所産業振興課の石川昌孝さんです。石川さんは、もともと静岡県庁で様々な部署を経験され、60歳定年を機に、4年前に静岡市役所に来

られ、現在は産業振興支援員として、市内の中小製造事業者の支援業務に就かれています。

そんな石川さんと百瀬さんとは繋いだのが「新現役交流会」の枠組みであり、県内の金融機関を巻き込み、全国に先駆け4年前に「自治体」主導の「静岡市新現役交流会」がスタートしました。

2年前の新型コロナ禍でも、「対面形式」から「オンライン形式」へ果敢に変更し、「新現役交流会」の参加者も新型コロナ禍前の2倍近くに増加する成果をあげられたのは、百瀬さんとの連携プレーの賜物だと石川さんは振り返ります。



石川昌孝さん

現場を大切にする百瀬さんだからこそその付加価値とは

4年間、静岡での交流会を担当してきた石川さんは百瀬さんの強みを次のように評してくれました。「常に中小企業の経営者に寄り添うスタンスを崩さず、日常業

務に追われがちな経営者から『何を支援して欲しいのか』を上手く引き出していたできます。また、企業紹介文も、表面的な会社情報ではなく、企業の生い立ちや、経営者のプロフィールも加えて、読み手が支援したくなる『ストーリー』に仕立ててもらっています。そのことが、6割を超える高いマッチング率に繋がっています」

多様な業種の経営者を支える百瀬さんの原動力は、シニアだからこそ「長年にわたって」「広い視野で」「現場を大切にしてきた」経験の結晶であると感じました。

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所理事長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星とビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自定人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」に寄せてください。

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。